

授業改善推進プラン

【 3年 】

令和7年度 小平市立小平第四小学校

	学習状況の実態及び課題	具体的な改善策(いつまでに、どの程度)
国語	・漢字は学習の積み重ねによって定着している児童と、なかなか定着しない児童とで差が見られる。特に書き取りに課題がある。 ・自分の考えや思いを積極的に書いたり、話したりできる児童が多い。既習の漢字を正しく使ったり文章のつながりを考えたりすることに課題がある。 ・辞書などを活用して言葉に注目して文章を読み取る力が高まってきた。	・漢字50問テストや小テストの実施を事前に伝え計画的に学習させる。小テストやワークテストで間違えた漢字は繰り返し練習させ、年度末の漢字50問テストの平均点を80点以上にする。 ・説明文では「はじめ・中・終わり」の文章構成を常に意識させる。日記の課題を出すなどして、文章構成を意識して書く経験を積ませる。 ◎全員が授業に参加し、個々に合った方法で考えたり伝えたりすることができるように、全員参加型の授業スタイルを取り入れていく。
社会	・地図記号や方位記号等の十分な定着には習熟が必要である。 ・資料を正しく読み取ったり、読み取ったことから考えを広げたりすることにまだ慣れていない児童が多い。 ・地域における社会的現象への関心をもち、地域探検などの探求的な活動に意欲的に取り組む児童が多い。	◎学習問題を明確に提示し、問題に対する予想と調べて気付いたことや分かったことを全体で共有することで考えを広げられるようにする。 ・はじめに前時の授業の振り返りや習熟が必要な内容(方位や地図記号など)の復習を繰り返し行い、知識の定着を図る。 ・傾向や特徴が捉えやすくなりやすい資料を用意し、複数の具体的資料から必要な情報を抜き出すことを通して、社会的な思考や判断の素地を身に付けられるようにする。
算数	・全体的に前向きに学習に取り組んでいる。 ・九九が定着していない児童がいる。 ・問題文を正確に読み取る力が不足していて、少しでも出題の仕方が違うと誤答してしまう。 ・問題文を正確に読み取り、絵や図を活用して立式に繋げる力に課題がある。	◎問題文→絵や図の活用→立式の流れが定着するように指導する。 ・たしひき筆算(特に繰り下がり)や、グラフと表の意味理解の問題に繰り返し取り組み、知識技能の定着を図る。 ・手本となるノートの学級掲示、線分図・テープ図・アレイ図等に触れる機会を増やす、絵や図を活用している児童を大型提示装置を使って全体に共有し全体の場で価値付けるなどして、児童が自分に合った絵や図の活用が行えるようにしていく。 ・楽しめる学習課題の設定、板書やノートの取り方を学年で統一して整える、学習の見通しをもたせる等の工夫を行い、児童が集中して取り組める学習環境を作る。
理科	・植物の栽培や実験にとっても興味をもち、積極的に取り組む児童が多い。 ・昆虫に関しては、好き嫌いが分かれているように感じたが、苦手意識がある中、観察はとてよく取り組んでいる。 ・ヤゴやモンシロチョウの様子を気にするものの、お世話には消極的である。 ・問題を見出し、様々な疑問をもちながら学習に取り組んでいるが、考えを表現することが難しい児童もいる。 ・用語など、基礎基本の定着が不足している。	◎共通の視点をもって学習に取り組むことで、既習内容をもとに予想を立てたり考えたりしやすくする。 ・定期的に学習内容を遡って振り返る時間を設け、基礎基本の定着を図る。 ・観察・実験などの体験を通して、児童がお互いに学び合えるように話し合い活動に取り組ませる。 ・3年生の観察・実験では得られにくい事象については、動画コンテンツやインターネットを活用して学習に取り組ませる。
音楽	・歌に親しみ声の出し方を調整して、すすんで表現する児童が多い。 ・歌詞の内容や旋律の流れ等からどのように歌ったり演奏したりすればよいか考えることができる。リコーダーの運指とタンギングを工夫しながら楽しく練習している。 ・体を動かす活動では、意欲的に活動できる児童が多い。 ・音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを伝える力を高める必要がある。	◎楽しく歌い、曲想をつかむとともに、リコーダー等の楽器に意欲的に取り組み、基礎的な技能の定着を図る。 ・リコーダーの指導では、正しい姿勢や運指の基礎を身に付ける時間を多く取り、基礎・基本を定着させる。 ・ペアやグループ活動を通して、自分の意見を基に互いに伝え、自分の思いをもつようにする。 ・体を動かす活動を通して、友達と気持ちよくコミュニケーションをとれる時間をつくり、心が解放できる時間をつくる。
図工	・自分の感覚や行為を通して、造形的な特徴が分かり、自分なりに工夫して表すことができる。 ・豊かな発想や構想ができ、すすんで表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。 ・友達の作品から、見方や感じ方を広げ、発想を発表できる。	◎より豊かな発想ができ、自分を生かす活動ができるよう、個に応じた支援を行う。 ・新しい材料・用具に既習事項を活かせるような題材を設定する。 ・授業の中で、鑑賞する時間を多く設定する。
体育	・様々な運動経験が不足し、基本的な動きがスムーズに行えない児童がいる。 ・用具の扱い方を十分に理解していない児童が多い。 ・自分でめあてを設定し、それに沿った練習方法を工夫する力をつける必要がある。 ・運動をすることが好きな児童が多く、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・個ではなくチームとして、協力し合う学習に取り組めるようになってきた。	◎学習カードを活用し、めあてを意識させて活動に取り組ませる。振り返りを行うことで、達成度を確認させたり、新たな課題を考えさせたりする。 ・自分や友達の動きを振り返り、新たな課題を考える時間を設け、解決するための方法や動き方の工夫を考えられるようにする。 ・正しい使い方、準備、片付け等を伝え、児童が自ら準備、片付けを行っていくようにする。 ・チームで活動する時は、チームでの目標を設定するなど協力して学習に取り組めるようにする。 ・児童の学習意欲が高まるように、個の実態に応じた運動量の確保、場の設定を工夫する。
総合	・意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。 ・課題設定や課題追究といった、学習のプロセスに慣れていない児童がいる。 ・調べたことや、自分の思いや願いを表現する方法に慣れていない。	◎課題意識をもって学習に取り組む、体験を通して考えを広げることができるようにする。 ・課題を見付ける、予想する、解決のための見通しをもつ、調べる、まとめるといった一連の学習のプロセスを学ばせる。 ・様々な表現方法を経験し、自分なりの方法で思いや考えを表現できるようにする。 ・身近な題材設定、地域の人材を活用した体験的な学習によってより自分事としてとらえ、取り組めるようにする。

特 活	・当番活動については意欲的に取り組んでいる。 ・係活動を自分たちで工夫して取り組んでいる。 ・学級会では自分の意見を意欲的に言う児童が増えてきているが、友達の意見を受け止めて合意形成に至る過程に課題が見られる。	◎よりよい人間関係を築くために、話し合いや意見交換などの活動を大切にする。 ・学級会の流れや役割分担を明確にし、児童が計画的に話し合いを進められるようにする。また、合意形成の仕方のヒントを掲示することによって児童の力でまとめられるようにする。 ・それぞれの係や当番での工夫を取り上げ称賛される機会を設けたり定期的に振り返りを行ったりして、更に意欲的に取り組めるよう支援する。
道 徳	・コミュニケーションを積極的に取ろうとし、元気よく挨拶ができる児童が多い。 ・自分の考えをもつことや表現すること、誰かに伝えることが苦手な児童がいる。 ・集団や社会における基本的なルールやマナーが守れない児童も見られる。	◎「B主として人との関わりに関すること」を重点に指導する。教材と身の回りの出来事に関連させて考えられるように、デジタル教材を活用して導入を工夫する。 ・自身と相手の考え方や捉え方の違いがあることに気付かせられるよう、話し合い活動を通して多面的・多角的に物事を捉えさせる。 ・友達の考えに触れ、自分の考えと比べるなどして自分の考えをもち、考えたことをノートに記録していく。
外 国 語	・チャンツや歌、映像、アクティビティを通して外国語に興味をもつ児童が多い。 ・英語を使って積極的にコミュニケーションを取ろうとする児童が多い。	・楽しい雰囲気の中でアクティビティを行い、英語表現に慣れ親しませる。 ・児童が楽しみやすいトピック(身近な人物や物)を英語で表現して発話に慣れ親しませる。